驚くべきことに、ここまで、AI はユーザーを満足させる方向へ進化しているということです。

2026/11/17

万能細胞 iPS ES STAP

ため息さんは、学とみ子文章の大事な 3 文節の中間文節を除いてしまい、最初の文節は最後の文節にかかると勝手に解釈し、学とみ子間違え証拠として、自身の ChatGPT に入れました。
ため息さんは、学とみ子文章をデタラメ解釈をしては、AI に同意を求めています。

このような場合でも、AI は、全面的にため息さんをサポートする状態にあることを見ておくことが大事ですね。
AI も、少しは、ため息さんをたしなめようとするのですが、ため息さんはたしなめられているというようには感じません。
誰からも批判されない状況ですから、ため息さんの悪口言動はやり放題ですね。

論文をめぐる議論をしているにもかかわらず、ため息さんは、全く、論文にアクセスしないという態度でした。
全く、読んでいないことは驚くべきことです。
学とみ子の日本語解説のデタラメのせいにしています。デタラメかどうかは、読んで始めてわかることです。
ため息さんは、トランプのように、「私がデタラメと言えば、世の中の人もデタラメであると認める」という姿勢のようです。
ため息さんのように、他人の読解努力に対して、あからさまな嫌がらせの言動であっても、言論の自由の世の中では、いたしかたないことです。
むしろ、大事なのは、AI の反応の方です。
あからさまな嫌がらせ言動でも、ユーザー第一の AI は、嫌がらせ側をサポートしています。
ここは、AI を使う人たちは、皆、注意すべきことではないかと思います。
実際、ため息さんは、学とみ子に対する強い否定を自身の ChatGPT に入れ込んでいますから、AI 回答も、学とみ子否定の論調で回答します。ため息 AI は、やんわりとため息さんの行き過ぎを指摘はしますが、そうした皮肉に気づかないため息さんは、又、同じような作業をいつまでも

繰り返しますね。ため息さんの質問には、だんだん、学とみ子に対しての直接的な悪口部分が多くなっていきます。
こうした悪口を強く入力しないと、ため息 AI と言えど、ため息さんの望む回答にはならないのでしょう。

つまり、AI もどんどん、悪口の同調性が強くなっていくようなのです。
現行 AI には、こうした問題点がおおいにあることにきづかせてくれるものであり、私たちは AI 使用時に注意が必要です。
ただ、ため息さんのようなデタラメな AI 使用をする人は他にはいないと思いますが・・・。

今回の論文は、ため息さんは、Oct、Nanog のある Fig1 を、最初に持ち出してきました。
それを見た学とみ子は、ため息さんは自身で Fig1 までは理解したのかなと思っていました。
Fig1 は、環境の変化があっても ES 能を保つという実験でした。
ところが、どっこい、ため息さんは以下の文章でもわかるように、ひとつも論文を読んでいなかったのですね。

以下のため息文章を読むと、Fig1 すら自分で読まず、Fig1 の説明英文は、AI が引用してくれた部分をただ、貼ったようです。
ため息さんは、論文全体を俯瞰するという作業をしませんね。学とみ子の説明文章にしがみつくだけです。
この領域の論文に読みなれていないし、もう、長いこと、論文と格闘するということをしてこなかったのでしょうね。
ため息さんは、Fig１にこだわり、学とみ子が「Fig1 は予備実験である」との説明を受け入れませんでした。

ため息さん、
＞当方は学とみ子のこの論文紹介の記事がアップされたのを見た時、学とみ子の記事を眺めただけで読むという無駄なことをせず、引用された論文の pdf をダウンロードし、学とみ子の記事全文とこの論文の pdf を ChatGPT に提供して、学とみ子の記事を評価してもらいました。依頼は評価してくださいだけで当方の意見は含まれていません。この時点で、学とみ子の記事をまともに読んでません。学とみ子の論文解説記事にはデタラメがあるのが普通ですからね。そのデタラメを検出するのに記事と論文両方を読むのは時間がかかり面倒です。特に当方の研究分野の論文ではないのですから右から左と簡単にポイントを抑えて短時間で読むのは難しいです。

さらに、学とみ子の意味不明日本語文章は読むのが大変だからね。
そしてChatGPTからの回答を得ました。その回答にある指摘事項を、学とみ子の記事と論文の該当部分を対比して読んで、ChatGPTの指摘が正しいと思ったから、ブログ記事を書いたわけです。当方の仕事に関係ないのだから、効率的な方法でいいでしょ（＊３）？ま、粗探しの最適方法という批判はあるでしょうね。しかし短時間で学とみ子のデタラメを発見するのに最適だと思いますし、事実「学とみ子さんの主張は、引用論文の研究結果を誤って拡大解釈したもので、科学的根拠がありません。」という指摘とその具体的部分「These findings indicate that, despite a marked effect on cell morphology, ECM stiffness has little to no direct effect on hESC differentiation or pluripotency. 細胞形態には顕著な影響があるものの、基質の硬さはヒトES細胞の分化や多能性に直接的にはほとんど影響しない」という学とみ子の解説に反する部分を抽出してくれました。

驚くことは、ため息さんの文章ではなく、AIの対応の方です。
上記でため息さんは、「基質の硬さはヒトES細胞の分化や多能性に直接的にはほとんど影響しない」と書いていますが、これは今回の論文の主題ではまったくありません。このFig1は、予備実験の位置づけとなる結果です。
ため息さんは論文全文をAIに入れたと言いますが、ため息さんのAIは、論文を正しく読みに行っていません。ここが注目点です。

結局、AIは、オリジナル論文読解を省略して、ため息さんが喜ぶことしか書きませんでした。
ため息さんが正当であるかのように持ち上げました。
ため息さんのAIは、論文を正確に読まずとも、ため息さんが喜ぶ回答作りをちゃんと知っているのです。
論文を全部読むと、ESが多能性を保つという論文ではないことが出てきてしまいます。
驚くべきことに、ここまで、AIは進化しているということです。省略して良いところを知っているということです。

以下も、ため息さんは論文全体を把握するができないことが良くわかります。
こうした人は、論文を読みたいという気分にはならないのではないでしょうかね。

Ｆｉｇ１は、ESが固い培地でも多能性を保つという結果ですが、ESが

STAP 細胞塊と接触したという状況とは、全く異なる条件です。
ため息さんは、細胞にとって負担になる外界環境について、全く見当つかない人のようです。

ES ねつ造説にこだわるなら、本気になって、ES と STAP 細胞の接触問題について語れないとならないのに、そうした正道の学術者のエビデンスに基づく主張すらできないため息さんですね。

ため息さん、
＞なにより Fig.1 の多能性を維持しているという結果を無視しているのはどういうことだ？と思うわけですね。

ため息さん、2026 年 11 月 18 日 06:13
＞多能性のマーカーが 5 日後も発現していたというデータ

普通の培地の条件は、生体と比べて固いということふまえたものです。
ため息さんは、どの実験がいかなる目的かを区別できません。最初から最後まで、論文を読もうとは思わない状況にあるのがため息さんなのです。ハードルが高いのでしょう。分化誘導剤を加えた時、ES 分化の動きが違う事を示した論文ですから、ES にとって人工培養は、接触面が固くて当たり前です。

生体内の柔らかい状態に近づける ES 培養が模索されています。こうした外部環境の違いが、前記事の 2020 年に書かれた ES 培養条件についてのサラチャーン総説です。

今回の AI 対応から分かることは、AI は論文を示しても、必ずしも読まないということが分かりました。やはり、ユーザーが質問を書かないと、AI も、その部分にアクセスせず、全体像を把握しないまま、ユーザーの興味のところしか AI 情報を出さないのです。ですから、ES と、他細胞の接触などの条件による ES 変化は、多数論文結果から、そこだけ抜き出す作業は、AI は不得意のようで、人がある程度、見当をつける作業が必要のようです。ES と、他細胞を接触させる実験目的の論文などありませんから、別の目的の実験一部で予備実験として、接触させた ES の結果があるかも知れないというところです。専門家にとっては自明な実験をわざわざヤる必要もないというところでしょう。

AI は、ユーザーの入力に依存し、ユーザーがけなす人は、AI も一緒にけなしてくれます。それの繰り返しです。ため息さんは自身で論文を読んでいないと言ってしまっているのに、それを後からカバーするために、ため息自身が有利になるように AI 入力して、自身の言い掛かりを隠そうと頑張るのですね。

学会で、多くの論文エビデンスをフリーに語れる人は、それだけ勉強し記憶しています。AI もこれと同じで、電気と水を使って論文読解しているのですね。網羅的に知識を抱えることはできません。